

1-5 インド学仏教史

研究・教育活動の概要と特色

本研究室の伝統は「インド学仏教史」という呼称に体现されている。後藤は古・中期インドアーリヤ語文献（ヴェーダ語，サンスクリット，パーリ語など）を，インド・イラン共通時代，さらにはインド・ヨーロッパ祖語時代をも考慮に入れて研究している。この方面においては今日世界に誇る拠点といえる。桜井は，研究室の伝統を受け継ぎ，インド，チベットのタントラ仏教を中心に未開拓の分野の解明に努め，さらに，仏教の展開を初期仏教から辿って跡付けている。2007年4月に赴任した吉水は，本研究室におけるインド哲学研究の伝統を新たな角度から復興し，初期中世のヒンドゥー教興起の時代に司祭階級（バラモン）が，ヴェーダの伝統の継承と他学派との論争を通じて，人間の認識能力と行為規範をどのように考えたかを解明している。

本研究室は「インド学仏教史」をその歴史的展開の両端から探求してきた。ヴェーダ研究はインド学をその創成期からリードしてきた（我が国には必ずしも根付いていなかった）分野，密教研究は本研究室が先鞭をつけ国内外で最近特に盛んな分野と言う意味でも，軸の両端である。厳密な原典研究，文献学を骨格とし，儀礼，宗教，思想などを扱う。ヴェーダの宗教とインド密教との間には時代の隔たりを超えて連なる要素があり，インド哲学研究を専門とする吉水が赴任したことで，古代から中世にかけてのインドの宗教と文化に見られる様々な繋がりを共同で研究することが可能になった。

後進が育ちつつある分野は，アヴェスタ，ヴェーダ文献を中心とする文法，祭式，思想，ウパニシャッドから仏教興起時代へ懸けての宗教・思想，古典期の古い文献，初期仏教，インド・チベット仏教の儀礼と思想などであり，国内外の専門家と協力して研究を進めている。

宗教学専攻分野と協同運営する「印度学宗教学会」は，文献研究の方法・成果を宗教学，民俗学，民族学と相互検証する機会として機能している。言語研究の面でも言語学専攻分野と協力することで本大学院の特長を活かしている。

I 組織

1 教員数（2009年9月末現在）

教授：2

准教授：1

助教：1

教授：後藤敏文、桜井宗信

准教授：吉水清孝

助教：菊谷竜太

2 在学生数（2009年9月末現在）

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
5	0	4	2	0

3 修了生・卒業生数（2005～2009年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (満期退学者)	博士学位 授与者
05	1	1	2	1
06	1	2	1	1
07	2	0	1	1
08	1	1	3	3
09	0	1	0	0
計	5	5	7	6

*2009年度は、9月末までの数字

II 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2005～2009年度）

1 博士学位授与

1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
05	1	0	1
06	1	0	1
07	1	0	1
08	3	0	2
09	0	0	0
計	6	0	6

*2009年度は、9月末までの数字

1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

藤本 有美，2005年度，「初期仏教僧団における雨季定住生活後の衣作成制度の研究」（課程博士），

審査委員：教授・後藤敏文（主査），教授・桜井宗信，教授・鈴木岩弓
スダン シャキヤ，2006年度，「*Nāmasaṃgīti* の研究 —Mañjuśrīkīrti 著 *Ārya-
mañjuśrīnāmasaṃgītiṭīkā* を中心に—」（課程博士），

審査委員：教授・桜井宗信（主査），教授・後藤敏文，教授・鈴木岩弓
笠松 直，2007年度，「火の礼拝—*Maitrāyaṇī Saṃhitā* I 5, 1–14 訳注研究—」
（課程博士），

審査委員：教授・後藤敏文（主査），教授・桜井宗信，教授・鈴木岩弓，
准教授・吉水清孝

菊谷竜太，2008年度，「ジュニャーナパーダ流に関する文献学的研究—
Dīpaṅkarabhadra 著 *Guhyaśamājamaṇḍalavidhi-Sārdhatriśatikā*，前段階の奉仕
儀軌（*pūrvasevāvidhi*），テキスト校訂・訳註研究—」（課程博士），

審査委員：教授・桜井宗信（主査），教授・後藤敏文，教授・鈴木岩弓，
准教授・吉水清孝

倉西憲一，2008年度，「ヤマーリ文献の研究—*Kṛṣṇayamāritantra* を中心に—」
（課程博士），

審査委員：教授・桜井宗信（主査）、教授・後藤敏文，教授・鈴木岩弓，
准教授・吉水清孝

尾園絢一，2008年度，「パーニニが言及するヴェーダ語形の研究—重複語幹
動詞を中心に—」（過程博士），

審査委員：教授・後藤敏文（主査），教授・桜井宗信，教授・千草眞一，
准教授・吉水清孝

2 大学院生等による論文発表

2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
05	7	1	0	0	8
06	6	0	0	0	6
07	4	0	0	0	4
08	8	3	0	0	11
09	10	2	0	0	12
計	35	6	0	0	41

*2009年度は9月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
05	0	6	2	2	10
06	3	1	0	0	4
07	0	11	0	0	11
08	1	7	1	0	9
09	2	7	0	0	9
計	6	32	3	2	43

*2009年度は9月末までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

井田克征 「ヒンドゥータントリズムにおけるチャクラプージャー」 『宗教研究』79(3), 2005年.

井田克征 「クールマチャクラについて」 『論集』33, 2006年.

尾園絢一 「Pāṇini-Sūtra 3.1.123 に挙げられるヴェーダ語の gerundive 語形について」, 『印度學佛教學研究』第54巻第2号, 2006年.

Jun'ichi Ozono "The Vedic intensive forms found in Pāṇini-Sūtra : the problem of some nipātana-forms", 『印度學佛教學研究』第56巻第3号, 2008年.

笠松直 「Veda 文献における *saṁ-sarj/srj* の語義について」, 『印度學佛教學研究』第54巻第2号, 2006年.

笠松直 「「祭火の礼拝」とその義務」, 『印度學佛教學研究』第56巻第1号, 2007年.

笠松直 「Maitrāyaṇī Samhitā 「祭火の礼拝」章の構成について」 『印度學佛教學研究』第57巻第2号, 2009年.

熊谷孝司 「占術文献における予兆に対する鎮静法について」, 『印度學佛教學研究』第53巻第2号, 2005年.

菊谷竜太 「ジュニャーパーダ流における三種の滴瑜伽について」, 『佛教学』第50号, 2008年.

- 菊谷竜太 「ジュニャーナパーダ流の生起次第をめぐって—『普賢成就法』と『四百五十頌』—」, 『密教文化』第 222 号, 2009 年度 (掲載予定) .
- 菊谷竜太 「秘密集会曼荼羅儀軌『四百五十頌』の儀礼構造をめぐる二つの立場 —*Vidapāda と Ratnākaraśānti— (仮題)」, 『論集』35 号, 2009 年度 (掲載予定) .
- Ryuuta Kikuya “Dīpaṅkarabhadra’s utpattikrama theory on the Guhyasamāja cycle” 『印度學佛教学研究』第 57 卷第 3 号, 2009 年度 (掲載予定) .
- Ken’ichi Kuranishi “Śrīdhara and his works on the Yamāri cycle”, 国際密教学会 Progress, 高野山国際密教学会, 高野山大学, 2007 年.
- 倉西憲一 「ヤントラ考」 『佛教学』第 50 号, 2008 年.
- スダン・シャキヤ 「『文殊真実名義経』の読誦について」, 『善通寺教学振興会紀要』第 10 号, 2005 年.
- スダン・シャキヤ “A study of the *Āryamañjuśrīnāmasaṃgīṭīkā* of Mañjuśrīkīrti — Focusing on its textual characteristics —”, 国際密教学会 Progress, 高野山国際密教学会, 高野山大学, 2007 年.
- スダン・シャキヤ 「ネパールに生きる密教儀礼について —法界語自在マンダラ儀礼の調査報告—」, 『密教資料研究紀要』第 10 号, 2008 年.
- スダン・シャキヤ 「仏教文献に見られる文殊の解釈の展開について」 *The Proceedings of the 2008 Korean Conference of Buddhist Studies*, 2008 年.
- スダン・シャキヤ 「スヴァヤンブー仏塔と『ナーマサンギーティ』をめぐって」, 『現代密教』第 19 号, 2008 年.
- スダン・シャキヤ 「「ナーマサンギーティ文殊」の図像と典拠についての一考察」, 『密教図像』第 27 号, 2008 年.
- スダン・シャキヤ 「ネパールの巡礼祭ディーパンカー・ヤートラーについて」, 『善通寺教学振興会紀要』第 13 号, 2008 年.
- スダン・シャキヤ 「『ナーマサンギーティ』と「法界語自在にマンダラ」について」, 『密教学研究』第 40 号, 2008 年.
- スダン・シャキヤ 「仏教文献に見られる文殊の解釈の展開について」, 『密教学』45 号, 2009 年.
- スダン・シャキヤ 「お釈迦さまのふるさと ネパールの仏教 (1) (2)」, 『大法輪』第 76-7 卷, 2009 年.
- Sudan Shakya “The Interpretation of Ādibuddha: as describe in the Nāmasaṃgīti commentaries”, 『印度学佛教学研究』第 58 号第 3 号, 2009

年度（掲載予定）。

中村隆海「*Atharvaveda* XIII 2,2」, 『印度學佛教學研究』第54巻第2号, 2006年.

中村隆海「*Veda* 文献における *pra-√jñā* の語義と用法」『松濤誠達先生古稀記念梵文学研究論集』松濤誠達先生古稀記念会（編）, 大祥出版, 2007年.

西村直子「月と神々の食物－*Śatapatha Brāhmaṇa* I 6,4（新月祭の *Upavasatha*）」, 『論集』34号, 2007年.

Naoko NISHIMURA “The mantra *g(h)oṣād asi* in the *Yajurveda*” *Münchener Studien zur Sprachwissenschaft* 63, 2003年（2009年刊行）.

Naoko NISHIMURA “Change of the theory about Soma’s circulation in the *Śatapatha-Brāhmaṇa*”, 『印度學仏教學研究』第57巻第3号, 2009年.

西村直子「ヴェーダ文献における胎児の発生と輪廻説」『論集』第36号（掲載予定）.

藤本有美「パーリ律 *Nissaggiya* 28 と雨季定住生活後の布の贈与について」, 『印度學仏教學研究』第104巻第2号, 2006年.

松森大樹「*Caryāmelāpakapradīpa* に見られる *Subhāṣitasamgraha* の引用について」, 『印度學仏教學研究』第56巻第2号, 2008年.

山田智輝「*vāstavyà-*, *vāstuhá-*, *vāstupá-* ー置き去りにされた居住地 に関する記述を巡ってー」, 『論集』第32号, 2006年.

山田智輝「『リグヴェーダ』サラスヴァティー讃歌 VI 61 の研究」『総合地球環境学研究所 プロジェクト H-03 「環境変化とインダス文明」2007年度成果報告書 プロジェクトリーダー：長田俊樹』総合地球環境学研究所・インダスプロジェクト, 2008年11月.

山田智輝「*Ṛgveda* IV61—*Sarasvatī* 讃歌—」, 『印度學仏教學』第57巻2号, 2009年.

（2）口頭発表

井田克征「*Kūrmacakra*について」第49回印度学宗教学会学術大会, 大正大学, 2006年6月.

井田克征 「ヒンドゥータントリズムにおける酒」第58回日本印度学仏教学会
学術大会，四国大学，2007年9月。

尾園絢一 「Pāṇini-Sūtra 3.1.123 に挙げられるヴェーダ語の gerundive 語形につ
いて」，印度学宗教学会第 48 回学術大会，2005 年 5 月。

尾園絢一 「Pāṇini-Sūtra 3.1.123 に挙げられるヴェーダ語の gerundive 語形につ
いて」，日本印度学仏教学会第 56 回学術大会，四天王寺国際仏教大学，
2005 年 7 月。

尾園絢一 「Pāṇini が挙げるヴェーダ語形 *dādharti*, *dardharti*, *dadharṣi*」，第 50
回印度学宗教学会，関西大学，2007 年 6 月。

尾園絢一 「Pāṇini-Sūtra に見られるヴェーダ語の *intensive* 語形について」，第
58 回日本印度学仏教学会，四国大学，2007 年 9 月。

笠松直 「Veda 文献における *saṁ-sarj* の語義について —獲得物分配の文脈
における用法—」，印度学宗教学会 第 54 回学術大会，2005 年 5 月。

笠松直 「Veda 文献における *saṁ-sarj/srj* の語義について」，日本印度学仏
教学会 第 56 回学術大会，四天王寺国際仏教大学，2005 年 7 月。

笠松直 「MS I 5,7 —晩と早朝の「祭火の礼拝」—」，印度学宗教学会第 50
回学術大会，関西大学，2007 年 6 月。

笠松直 「「祭火の礼拝」とその義務」，日本印度学仏教学会，第 58 回学術大
会，四国大学，2007 年 9 月。

笠松直 『マヌと五人の息子たち』印度学宗教学会第 51 回学術大会，宮城学院
女子大学，2008 年 6 月。

笠松直 「Maitrāyaṇīsaṁhitā 「祭火の礼拝」章の構成について」，日本印度学仏
教学会第 59 回学術大会，愛知学院大学，2008 年 9 月。

Ryuuta KIKUYA "Bhadrapāda's utpattikrama theory", Proceedings of the
International Conference on Esoteric Buddhist (国際密教学会)，高野山大学，
2006 年 9 月。

菊谷竜太 「ジュニャーナパーダ流における金剛念誦次第」，仏教思想学会，
鶴見大学，2007 年 6 月。

- 菊谷竜太「ジュニャーナパーダ流の四支成就法 (caturāṅgasādhana) について」,
密教研究会平成 20 年度学術大会, 高野山大学, 2008 年 7 月.
- 菊谷竜太「ジュニャーナパーダ流の究竟次第をめぐって」, 日本印度学仏教
学会第 59 回学術大会, 愛知学院大学, 2008 年 9 月.
- 菊谷竜太「ジュニャーナパーダ流の生起次第をめぐって —Buddhaśrījñāna,
Dīpaṅkarabhadra, *Viḍapāda—」第 52 回印度学宗教学会学術大会, 金沢
大学, 2009 年 5 月.
- 菊谷竜太「ジュニャーナパーダ流の生起次第をめぐって」, 平成 21 年度密
教研究会学術大会, 高野山大学, 2009 年 7 月.
- 菊谷竜太「ジュニャーナパーダ流の生起次第をめぐって —『普賢成就法』
と『四百五十頌』—」日本印度学仏教学会第 60 回学術大会, 大谷大学,
2009 年 9 月.
- Ken'ichi KURANISHI "Śrīdhara's works on the Yamāri cycle ", Proceedings of the
International Conference on Esoteric Buddhist (国際密教学会), 高野山大学,
2006 年 9 月.
- 倉西憲一「ヤントラ考 —ヤマーリ文献を中心に—」, 仏教思想学会, 東京
大学, 2008 年 7 月.
- Ken'ichi KURANISHI "On the abhiṣeka ritual of Yamāri cycle" The 14th World
Sanskrit Conference, 京都大学, 2009 年 9 月.
- 倉西憲一「Māraṇa に関する一考察」, 日本仏教学会, 立正大学, 2009 年 9
月.
- スダン・シャキヤ「Nāmasaṅgīti の思想について」, 佛教思想史学会第 20 回学
術大会, 2004 年 6 月.
- スダン・シャキヤ "A study of the Āryamañjuśrīnāmasaṅgīṭīkā of Mañjuśrīkīrti
—Focusing on its textual characteristics —", Proceedings of the International
Conference on Esoteric Buddhist (国際密教学会), 高野山大学, 2006 年 9
月.
- Sudan SHAKYA "The Iconography of Nāmasaṅgīti-Mañjuśrīn Nepal The 3rd
International Congress of Cultural Atlases (ECAI) Russian Academy of
Science, Moscow", 2007 年 5 月.
- スダン・シャキヤ「『ナーマサンギーティ』と「法界語自在マンドラ」につ
いて」日本密教学会, 東京, 2007 年 10 月.
- スダン・シャキヤ「「ナーマサンギーティ文殊」の図像の典拠とその用例を

めぐって」，密教図像学会，法楽寺，2007年12月。

Sudan SHAKYA “The interpretation of the Mañjuśrī in the Buddhist Tantric literatures”，Korean Association of Buddhist Studies, Dongguk University, Seoul, 2008年5月。

スダン・シャキヤ 「『ナーマサンギーティ』の註釈に見られる本初仏の解釈について」，日本印度学仏教学会第60回学術大会，大谷大学，2009年9月。

中村隆海「*Atharvaveda* XIII 2,2」，日本印度学仏教学会第56回学術大会，2005年

西村直子「*Śatapatha-Brāhmaṇa* における Soma 循環理論の変遷」，日本印度学仏教学会第59回学術大会，愛知学院大学，2008年9月。

西村直子「ヴェーダ文献における胎児の発生と輪廻説」，第52回印度学宗教学会学術大会，金沢大学，2009年5月。

Naoko NISHIMURA “Some aspects of Vedic embryology” The 14th World Sanskrit Conference, 京都大学，2009年9月。

藤本有美「パーリ律 Nissaggiya 28 と雨季定住生活後の布の贈与について」，印度学宗教学会第48回学術大会，2005年5月。

藤本有美「パーリ律 Nissaggiya 28 と雨季定住生活後の布の贈与について」，印度学仏教学会第56回学術大会，2005年7月。

松森大樹「*Caryāmelāpakapradīpa*に見られる *Subhāṣitasamgraha* の引用について」，印度学仏教学会第58回学術大会，四国大学，2007年9月。

山田智輝「*vāstuhá-*と *vāstupá-* ヲヴェーダ期の移住生活における遺構に関する記述を巡って」，印度学宗教学会，於東北大学，2005年5月。

山田智輝「*Sarasvatī* を巡ってーリグヴェーダを中心にー」，日本印度学仏教学会第59回学術大会，愛知学院大学，2008年9月。

山田智輝「『リグヴェーダ』サラスヴァティー讃歌の解釈を巡って」インダス・プロジェクトプロジェクトメンバー全体会議，総合地球環境学研究所，11月，2008年。

3 大学院生・学部生等の受賞状況

西村直子 第50回印度学宗教学会学会賞（2007年6月）
第51回日本印度学仏教学会賞（2009年9月）

スダン・シャキヤ 第41回日本密教学学会賞（2008年10月）

4 日本学術振興会研究員採択状況

2005年度，DC，採用，1名．

2005年度，PD，受け入れ，1名．

2008年度，PD，採用，1名．

5 留学・留学生受け入れ

5-1 大学院生・学部学生等の留学数

2008年度 大学院 ハンブルグ大学 ドイツ

2009年度 大学院 ブルツブルグ大学 ドイツ

5-2 留学生の受け入れ状況

年度	学部	大学院	計
05	0	1	1
06	0	1	1
07	1	0	1
08	1	0	1
09	1	0	1
計	3	2	5

6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
05	0	0	0
06	0	0	0
07	0	0	0
08	0	0	0
09	0	0	0
計	0	0	0

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

7-1 専攻分野出身の研究者

林隆嗣（D 2003 単位取得退学），仙台電波工業専門学校総合科学科助教授（現准教授），2005年

林隆嗣（D 2003 単位取得退学），こども教育宝仙大学教授，2009 年
笠松直（D 2008 修了），仙台電波工業専門学校総合科学科専任講師，2009 年

7-2 専攻分野出身の高度職業人

2005 年度 国際交流基金 1 名

8 客員研究員の受け入れ状況

なし

9 外国人研究者の受け入れ状況

なし

10 刊行物（専攻分野刊行のもの）

『論集』（宗教学専攻分野と共催する印度学宗教学会の機関誌）毎年刊行

11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2005 年度

- ・東北大学大学院文学研究科シンポジウム「宗教の諸相 一多神教と一神教」，
2005 年 2 月 5 日開催（延べ 400 人を越える聴衆を集めた）
講演：山折哲雄・国際日本文化研究所長，M. ヴイツツェル・ハーヴァ
ード大学教授
公開討論：上記二名に加え，山形孝夫・宮城学院女子大学名誉教授，
手島勲矢・大阪産業大学教授，長田俊樹・総合地球環境学
研究所教授，後藤敏文・東北大学教授
- ・印度学宗教学会事務局（宗教学専攻分野と共同）
- ・印度学宗教学会第 48 回学術大会，東北大学，2005 年 5 月 28-29 日

2006 年度

- ・印度学宗教学会事務局（宗教学専攻分野と共同）
- ・第 49 回学術大会，大正大学，2006 年 6 月 10-11 日

2007 年度

- ・印度学宗教学会事務局（宗教学専攻分野と共同）
- ・第 50 回学術大会，関西大学，2007 年 6 月 9-10 日

2008 年度

- ・印度学宗教学会事務局（宗教学専攻分野と共同）
- ・第 51 回学術大会，宮城学院女子大学，2008 年 6 月 7－8 日

2009 年度

- ・印度学宗教学会事務局（宗教学専攻分野と共同）
- ・第 52 回学術大会，金沢大学，2009 年 5 月 30－31 日

1 2 専攻分野主催の研究会等活動状況

2005 年 5 月 12 日	インド学仏教史研究室研究会
2005 年 10 月 21 日	卒業論文・修士論文構想発表会
2006 年 11 月 16 日	卒業論文・修士論文構想発表
2007 年 11 月 13 日	卒業論文・修士論文構想発表
2008 年 11 月 21 日	卒業論文・修士論文構想発表
2009 年 5 月 15 日	卒業論文・修士論文成果発表会

1 3 組織としての研究・教育活動に関する過去 5 年間の自己点検と評価

平成 19 年度には文学部の耐震改修工事が実施されたため，夏から冬にかけて，研究室の多くの図書・雑誌を保管先に送り，使用することができなくなってしまった。また改修工事の前後には，大量の図書を梱包し，また開封して元通りに配置するために，大学院生と学部生全員に多大な時間と労力を割いてもらわざるを得なかった。このような，かつてない厳しい環境下にあったにも拘わらず，本研究室の大学院生たちは懸命に研究を続けた。平成 19 年度末に 1 名，平成 20 年度初めに 2 名が課程博士論文を提出して学位を取得したことは，その表れである。

現在在籍中の大学院生はヴェーダの祭式・説話，伝統文法，広義の仏教タントラ文献などを研究対象としている。ヴェーダ研究の諸相において本研究室は国際的に見ても生産的な拠点の観を呈している。2005 年度に開催した東北大学大学院文学研究科シンポジウム「宗教の諸相多神教と一神教」では，ハーバード大学より，ヴェーダ学研究で著名な M. ヴィッツェル教授を招き，延べ 400 人を越える聴衆を集めた。後藤敏文教授は，ヴィッツェル教授と共同で，注釈つきで『リグ・ヴェーダ』ドイツ語訳全 4 巻の出版を開始し，2007 年に第 1 巻を刊行した。

密教研究の分野においては，2006 年夏の「国際密教学会」（高野山大学）において 3 名の大学院生が英語で研究発表をした。地道な成果が実りつつあることを示している。国際的な密教研究の興隆とともに，益々本研究室の重みが示されて行く見通しである。

更に2009年4月には学審外国人研究員として Sudan Shakya 氏を受け入れ、桜井と共に二カ年間の共同研究に入り、インド・ネパール密教の基盤を文献学的に考察している。

そもそも「インド学仏教史」の研究には「サンスクリット」、パーリ語、チベット語の訓練に時間と力を割くことが前提となるため、研究発表は数多くは望めない。参考文献を利用するために欧米言語の習得も必須である。博士論文には中核的テーマを正面から選ぶことが後の研究に重要であり、大学院生はこれに専念する必要がある。

以上は、本学の「インド学仏教史」の伝統の上に立つ成果であると言える。ヴェーダ文献と仏教タントラ以外の分野を補充するべく2007年に赴任した准教授の吉水は、主にインド哲学諸学派および中世までの時代のヒンドゥー教に関する研究教育を進めていく予定である。

加えて2009年9月1日から9月5日にかけて京都大学で開かれた第14回世界サンスクリット会議を準備するために、吉水は、桂紹隆龍谷大学教授およびMark Sideritsイリノイ州立大学教授と共に、哲学部会の部会招集者として発表希望者の選別審査に当たり、48名の発表者より成るプログラムを作成し、また自ら研究発表をした。後藤敏文はこの会議の言語部会とヴェーダ部会で研究発表し、他にヴェーダ部会で西村直子及び笠松直が、タントリズム部会で倉西憲一が研究発表した。

さらなる充実が望まれる分野としては、中世以降のインド文学と科学、唯識、中観を中心とする大乘仏教教理の研究、パーリ経典や大乘仏典そのものの研究などが挙げられる。グローバル化する国際情勢の中で、インドは独自の文化を保ちつつ経済大国化への道を歩み始めている。今後益々国際社会で注目されていくインドの文化に関して、人文科学の観点からの正確な認識を学生に与えるために、また意義ある研究成果を発表しつつも未だ定職につく機会を得ていない若手研究者を活用する意味からも、これらの分野での非常勤講師を確保することが重要である。

Ⅲ 教員の研究活動（2005～2009年度）

1 教員による論文発表等

1-1 論文

Toshifumi GOTŌ “Yājñavalkya’s Characterization of the Ātman and the Four Kinds of Suffering in Early Buddhism” *Electronic Journal of Vedic Studies* 12-2, pp. 70–84. 2005.

後藤敏文 「雪が焦がす」長崎法潤博士古稀記念論集『仏教とジャイナ教』,

pp. 480–467. 2005.

後藤敏文 「ai. *ádbhuta-*, *ádabdha-*, jav. *abda-*, *dapta-*, 及び ai. *addhā*, aav. ap. *azdā*」『印度学仏教学研究』54, pp. 325–320. 2005.

Toshifumi GOTŌ “*Aśvín-* and *Násatyā-* in the *Ṛgveda* and their prehistoric background” *Proceedings of the Pre-symposium of RIHN and 7th ESCA Harvard-Kyoto Roundtable*, ed. by T. Osada, pp.253–28. 2006.

Toshifumi GOTŌ “Ai. *ádbhuta-*, *ádabdha-*, jav. *abda-*, *dapta-*, und ai. *addhā*, aav. ap. *azdā*” *Indogermanica. Festschrift für Gert Klingenschmitt*, hrsg. von G. Schweiger, pp.193–212. 2006.

後藤敏文 「荷車と小屋住まい: *ŚB śālām as*」『印度学仏教学研究』55, pp.220-224. 2007.

後藤敏文 「*śraddhā-*, *cretō* の語義と語形について」『論集』34, pp.578–638. 2007.

Toshifumi GOTŌ “Reisekarren und das Wohnen in der Hütte: *śālām as* im *Śatapatha-Brāhmaṇa*” *Indologica. T. Ya. Elizarenkova Memorial Volume*, Book 1, Moscow, pp.115–125. 2008.

Toshifumi GOTŌ “Der Optativ *bhṛjyáyur* in den *Yajurveda-Samhitās*” *Zarathushtra entre l’Inde et l’Iran*, Wiesbaden, pp.107–113. 2009.

後藤敏文 「『業』と『輪廻』ーヴェーダから仏教へ」北海道印度哲学学会『印度哲学仏教学研究』24 掲載予定（約 30 頁），印刷中

桜井宗信 「Prajñārakṣita 『*Cakrasaṃvarābhisamaya* 註』の原典研究ー梵文校訂テキスト(1)ー」『慈悲と智慧の世界』，智山勧学会，pp.161-185. 2005.

桜井宗信 「Prajñārakṣita 『*Cakrasaṃvarābhisamaya* 註』の原典研究ー梵文校訂テキスト(2)ー」『マンダラの諸相と文化』(上)，法蔵館，pp.85-100. 2005.

桜井宗信 「『ナーマサンギーティ』読経から瞑想へ；『ドウルガティパリシヨーダナ・タントラ』死者の救済と後生安楽を目指して」松長有慶編著『インド後期密教』(上)，春秋社，pp.115-160. 2005.

桜井宗信 「Mañjuśrīmitra の説く死者儀礼」『密教学研究』第 33 号，pp.1-14(横書). 2006.

桜井宗信 「〈七瑜伽(sbyor ba bdun)〉覚書」『密教理趣の宇宙』，智山勧学会，pp.(359)-(370). 2007.

桜井宗信 「後期インド密教における悲愍の一側面ー〈完全なる悲愍〉を巡ってー」，『日本仏教学会年報』第 72 号，pp.91-105(横組)，2007.

桜井宗信 「文殊具密流の伝える死者儀礼」，『真言密教と日本文化』，ノン

- ブル社, pp.159-181(横組), 2007.
- 桜井宗信 「インド後期密教における葬儀と追善」, 『現代密教』第 19 号, pp.135-144, 2008.
- 桜井宗信 「〈五相現等覚〉ノート—Jñānapāda 流成就法を中心として—」, 『智山学報』第 58 輯, pp.(37)-(53), 2009.
- 桜井宗信 「Jñānapāda 流の伝える死者蘇生儀礼—Vitapāda の所説を中心に—」, 『現代密教』第 20 号, pp.197-210, 2009.
- 吉水清孝 「「曙色」をめぐるミーマーンサー的考察」『印度哲学仏教学』20, pp. 336–363. 2005.
- Kiyotaka YOSHIMIZU “The Theorem of the Singleness of a Goblet (*graha-ekatva-nyāya*) : A Mīmāṃsā Analysis of Meaning and Context,” M. Hattori (ed.) : *Word and Meaning in Indian Philosophy, Acta Asiatica* 90, pp. 5–38. 2006.
- 吉水清孝 「クマーリラによる定動詞接辞の表示理論について」『印度哲学仏教学』21, pp. 298–315. 2006.
- 吉水清孝 「祭式で虚偽を語ってはならないのは何のためか—定動詞表示と文脈—」『印度学仏教学研究』第 55 卷第 2 号, pp. 814–820. 2007.
- Kiyotaka YOSHIMIZU “Kumārila’s Reevaluation of the Sacrifice and the Veda from a Vedānta Perspective,” J. Bronkhorst (ed.) : *Mīmāṃsā and Vedānta, Interaction and Continuity. Papers of the 12th World Sanskrit Conference. Vol. 10.3*, Delhi, pp.201–253. 2007.
- Kiyotaka YOSHIMIZU “Kumārila’s Propositional Derivation (*arthāpatti*) without Pervasion (*vyāpti*),” K. Preisendanz (ed.) : *Expanding and Merging Horizons. Contributions to South Asian and Cross-Cultural Studies in Commemoration of Wilhelm Halbfass*, Vienna, pp.315–335. 2007.
- Kiyotaka YOSHIMIZU “Reconsidering the fragment of the *Bṛhaṭṭīkā* on inseparable connection (*avinābhāva*),” B. Kellner, H. Krasser, H. Lasic, M. T. Much, H. Tauscher (eds.): *Pramāṇakīrtiḥ, Papers Dedicated to Ernst Steinkellner on the Occasion of his 70th Birthday*, (Wiener Studien zur Tibetologie und Buddhismuskunde 70), Vienna, pp. 1079–1103. 2007.
- 吉水清孝 「定動詞の *kāraka* 表示論証とクマーリラによるその批判について」『論集』34, pp. 506-522. 2007.
- Kiyotaka YOSHIMIZU “The Intention of Expression (*vivakṣā*), the Expounding (*vyākhyā*) of a Text, and the Authorlessness of the Veda,” *Zeitschrift der*

Deutschen Morgenländischen Gesellschaft 158, pp. 51-71. 2008.

吉水清孝 「祭式のなかの神々—ミーマーンサー学派の立場から—」『論集』（印度学宗教学会）35, pp. 51-72. 2008.

1-2 著書・編著

後藤敏文 *Rig-Veda. Das heilige Wissen. Erster bis zweiter Liederkreis. Aus dem vedischen Sanskrit übersetzt und herausgegeben von Michael Witzel und Toshifumi Gotō unter Mitarbeit von Eijirō Dōyama und Mislav Ježić. Verlag der Weltregionen. 2007年9月。（後藤担当分: 167-347, 636-780, 409-412, 813-816, 825-855, 856-860, その他全般。）*

1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

書評

吉水清孝 「藤井毅著『歴史のなかのカースト』」『印度哲学仏教学』20, pp. 380-381. 2005.

吉水清孝 「西村直子著『放牧と敷き草刈り』」『印度哲学仏教学』21, pp. 375-376. 2006.

吉水清孝 「山崎元一・小西正捷編『南アジア史 1』（先史・古代），辛島昇編『南アジア史 3』（南インド）」『印度哲学仏教学』22, 381-382頁. 2007

解説

後藤敏文 「サンスクリット語」, 「輪廻」と「業」, 『人文科学ハンドブック —スキルと作法—』, 中村捷編, 東北大学出版会, pp. 43-45, pp. 139-143. 2005.

後藤敏文 「コメント: 古インド=イラン語文献学から」, 『インド考古研究』26, pp. 179-191. 2005.

後藤敏文 「古代インドイランの宗教から見た一神教」『一神教の学際的研究 研究成果報告書』2006年度, 同志社大学一神教学際研究センター, pp. 86-111. 2007.

後藤敏文 「古代インドの祭式概観 —形式・構成・原理—」『総合人間学叢書』第3巻, 東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所, pp. 57-102. 2008.

後藤敏文 「インドのことばとヨーロッパのことば」『ことばの世界とその魅

- 力』人文社会科学講シリーズ III, 阿子島香編, pp. 118-163. 2008.
- 後藤敏文 「(論文と解説)部族の火の東進 - 『ヴェーダ』の神話, 儀礼とその歴史的背景」後藤敏文, 山田智輝, 永ノ尾信吾 総合地球環境学研究所 2007 年度成果報告書 『環境変化とインダス文明』, プロジェクトリーダー 長田俊樹, pp.127-140, 2009.
- 後藤敏文 「ヴェーダ時代のサラスヴァティー河をめぐって」後藤敏文, 山田智輝, 永ノ尾信吾 総合地球環境学研究所 2007 年度成果報告書 『環境変化とインダス文明』, プロジェクトリーダー 長田俊樹, pp.115-118. 2009.
- 後藤敏文 「古インドアーリヤ語」, 「アヴェスタ語」 月刊 『言語』, 特集 古典語・古代語の世界, 大修館, 2008 年 (Vol. 37) 12 月号, pp.36-44, 80-83.
- 後藤敏文 「古代インド文献に見る天空地」 『天空の神話 - 風と鳥と星』 篠田知和基篇, 楽瑯書院, pp.107-125. 2009.
- 後藤敏文 「インドの天空, そして大地」 『アジア遊学』 121, 特集「天空の神話学」, 勉誠出版, pp.18-25. 2009.
- 後藤敏文 「インド学へのいざない [1] インド学とは」月刊 『言語』, 大修館, 2009 年 (Vol. 38) 4 月号, pp.66-71.
- 後藤敏文 「インド学へのいざない [2] リグヴェーダ」月刊 『言語』, 大修館, 2009 年 (Vol. 38) 5 月号, pp.80-85.
- 後藤敏文 「インド学へのいざない [3] ブラーフマナからウパニシャッドへ」月刊 『言語』, 大修館, 2009 年 (Vol. 38) 6 月号, pp.80-85.
- 後藤敏文 「インド学へのいざない [4] 仏教の成立」月刊 『言語』, 大修館, 2009 年 (Vol. 38) 7 月号, pp.80-85.
- 後藤敏文 「インド学へのいざない [5] パーニニのサンスクリット文典と古典期の諸文献」月刊 『言語』, 大修館, 2009 年 (Vol. 38) 8 月号, pp.82-87.
- 後藤敏文 「インド学へのいざない [6] 入門インド学」 月刊 『言語』, 大修館, 2009 年 (Vol. 38) 9 月号: 印刷中
- 後藤敏文 「ヴェーダとインド・ヨーロッパ語族の文化」 校成出版社 『新アジア仏教史』 : 印刷中
- 桜井宗信 「学ぶためのスキル 3. 外国語を学ぶ「古典チベット語」」中村捷編 『人文科学ハンドブック - スキルと作法 -』, 東北大学出版会, pp.41-43.

2005.

吉水清孝 「クマーリラと『マハーバーラタ』の英雄たち」『北海道印度哲学
仏教学会会報』21, pp. 12-15. 2007.

辞書項目

後藤敏文 「辻直四郎『インド文明の曙-ヴェーダとウパニシャッド-』」, 『宗
教学文献事典』, 弘文堂, p.240. 2007.

1-4 口頭発表

後藤敏文 「*śraddhá-* = *credō* 『信仰』の語義と語源について」, 印度学宗教学会,
仙台(東北大学)2005年5月.

Toshifumi GOTŌ “*Áśvin-* and *Nāsatya-* in the *Ṛgveda* and their prehistoric
background”, 7th ESCA Harvard-Kyoto Roundtable / Pre-Symposium of the
Research Institute for Humanity and Nature (RIHN), Kyoto, 6-8 June 2005.

後藤敏文 「ai. *ádbhuta-*, *ádabdhā-*, jav. *abda-*, *dapta-*, 及び ai. *addhá*, aav. ap.
azdā」, 日本印度学仏教学会第56回学術大会, 大阪(四天王寺国際仏教大
学), 2005年7月.

後藤敏文 「荷車と小屋住まい: *ŚB śālām as*」, 日本印度学仏教学会第57回学術
大会, 東京(大正大学), 2006年9月.

後藤敏文 「部族の火の東進 -『ヴェーダ』の神話, 儀礼とその歴史的背景(現実
- 神話 - 儀礼)」第51回印度学宗教学会, 宮城学院女子大学, 2008年6月.

Toshifumi GOTŌ “Grammatical Irregularities in the *Rigveda*, Book IV”, 14th
World Sanskrit Conference, Kyoto, 3-5 September 2009. (Linguistics Section)

Toshifumi GOTŌ “On the *Mārtāṇḍa* myth in *Rigveda* X 72”, 14th World
Sanskrit Conference, Kyoto, 3-5 September 2009. (Veda Section)

Toshifumi GOTŌ “Das Wörterbuch zum *Rigveda* aus heutiger Sicht”, From Past
to Future: Grassmann’s Work in Context Grassmann Bicentennial Conference
(1809-1877), Potsdam / Szczecin, 16-19 September 2009. [招待発表]

Toshifumi GOTŌ “Vedische Befunde zur Einwanderung der *Āryas*”,
Arbeitstagung der Indogermanischen Gesellschaft 2009: Die Ausbreitung des
Indogermanischen. Thesen aus Sprachwissenschaft, Archäologie und Genetik,
Würzburg, 24-26 September 2009.

桜井宗信 「サンヴァラ系成就法の曼荼羅瞑想法めぐって - *Atīśa* 流儀による

- 「観想上の灌頂」を中心にしてー, 日本印度学仏教学会第 55 回学術大会, 東京 (駒澤大学), 2004(平成 16)年 7 月.
- 桜井宗信 「マンジュシュリーミトラの説く死者儀礼」, 日本密教学会第 38 回学術大会, 東京 (真言宗豊山派宗務所), 2005(平成 17)年 10 月.
- 桜井宗信 「後期インド密教における *karuṇā* の一側面ー『七瑜伽』・『七支』を中心にしてー」, 平成 18 年度日本仏教学会学術大会, 日進 (愛知学院大学), 2006((平成 18))年 9 月.
- 桜井宗信 「文殊具密流の伝える死者儀礼」, 第 51 回智山学術大会, 東京 (真福寺), 2007(平成 19)年 5 月.
- 桜井宗信 「Jñānapāda 流所属の「成就法」における〈五相現等覚〉について」, 第 52 回智山学術大会, 東京 (真福寺), 2008(平成 20)年 5 月.
- 桜井宗信 「インド密教における儀礼と神話ー悪趣救済をめぐるー」, 第 51 回印度学宗教学会学術大会, 仙台 (宮城学院女子大学), 2008(平成 20)年 6 月.
- Kiyotaka YOSHIMIZU “Reconsidering the *Bṛhaṭṭīkā* Fragments on *avinābhāva* and *niyama*,” 4th International Dharmakīrti Conference, Vienna, Austria, 2005 年 8 月.
- 吉水清孝 「「曙色」をめぐるミーマーンサー的考察」, 北海道印度哲学仏教学会第 21 回大会 (北海道武蔵短期大学), 2005 年 9 月.
- 吉水清孝 「クマーリラによる定動詞の語尾表示理論について」, 北海道印度哲学仏教学会第 22 回大会 (北海道大谷大学), 2006 年 8 月.
- 吉水清孝 「祭式で虚偽を語ってはならないのは何のためかー一定動詞表示と文脈」, 日本印度学仏教学会第 57 回大会 (大正大学), 2006 年 9 月.
- 吉水清孝 「クマーリラによるパーニニ文典 2.3.1 の解釈について」, 北海道印度哲学仏教学会第 23 回大会 (苫小牧駒澤大学), 2007 年 7 月.
- 吉水清孝 「祭式の中の神々ーミーマーンサー学派の立場から」, 第 51 回印度学宗教学会学術大会 (宮城学院女子大学), 2008 年 6 月.
- 吉水清孝 「クマーリラにおける語の意味表示と文脈」印度学宗教学会第 52 回学術大会 (金沢大学), 2009 年 5 月.
- Kiyotaka YOSHIMIZU "How to refer to a thing by a word: Another difference in the theories of denotation between Dignāga and Kumāriḷa," 14th World Sanskrit Conference, Kyoto University. 2009 年 9 月.

2 教員の受賞歴（2005～2009年度）

なし

IV 教員による競争的資金獲得（2005～2009年度）

（1）科学研究費補助金

- 2004年度－2006年度 科学研究費補助金基盤研究(C), 後藤敏文（研究代表者）
「古インドアーリヤ語動詞研究－全活用形・派生語形の検証と一覧表の作成－」課題番号 16520043, 2,500,000 円(2006年度までの3年間総額)
- 2005－2008年度 科学研究費補助金基盤研究(C), 吉水清孝（研究代表者）「インドのテキスト解釈学における文脈理論の基礎的研究」課題番号 17520042, 3,600,000 円（2008年度までの4年間総額）
- 2007年度－2010年度 科学研究費補助金基盤研究(B), 後藤敏文（研究代表者）
「リグヴェーダ翻訳研究」課題番号 19320009, 2,990,000 円(2007年度分), 2,730,000 円(2008年度分)
- 2009年度－2011年度 科学研究費補助金基盤研究(C), 桜井宗信（研究代表者）
「密教流伝史研究－インド・チベット密教翻訳僧データベースの構築－」課題番号 21520053-00, 2,300,000 円(2011年度までの3年間総額)

（2）その他

なし

V 教員による社会貢献（2005～2009年度）

- 後藤敏文 「『業と輪廻』の成立過程を追って」北海道印度哲学仏教学会公開講演, 北海道大学, 2006年9月30日
- 後藤敏文 「インドのことばとヨーロッパのことば」, 有備館講座第4期「世界の言語」大崎市岩出山スコーレハウス, 2007年2月17日
- 後藤敏文 「古代インド文献に見る天・空・地」比較神話学シンポジウム「天空の神話」, 2009年1月
- 桜井宗信 「インド仏教研究と河口慧海」, 栃木県立栃木高校(出張講義講師), 2006年3月
- 桜井宗信 「インド仏教学」真言宗智山派伝法院(非常勤教授), 2006年8月～2008年5月

桜井宗信 「インド仏教史研究紹介」, 宮城県立仙台第一高校 (出張講義講師),
2006年11月

桜井宗信 「古代インドにおける『人生の目的』」, 第4期有備館講座東北大学大学院文学研究科市民のための公開セミナー講師, 2007(平成19)年9月

桜井宗信 真言宗智山派伝法院客員講師: 「インド仏教学」. 2008(平成20)年6月-現在 (※「『悪趣浄化タントラ』チベット語訳校訂テキスト整理」という研究会を主宰し年3回の例会を開催)

桜井宗信 「インド学仏教史から見える日本 河口慧海とチベット~仏教探求への眼差し~」, 平成21年度千賀の浦大学5月学習会 (主催: 塩竈市生涯学習センター) 講師, 2009年5月

桜井宗信 「インド・チベット仏教と死者供養—葬儀と追善—」, 平成21年度真言宗智山派山形村山置賜教区合同講習会講師, 2009年8月

VI 教員による学会役員等の引き受け状況 (2005~2009年度)

後藤敏文

日本印度学仏教学会評議員	1991年度-現在
日本印度学仏教学会理事	1991年度-1996年度, 2002年度-現在
日本仏教学会理事	1991年度-1996年度, 2002年度-2004年度
印度学宗教学会常務理事	1997年度-現在
印度学宗教学会会長	2004年度-2005年度, 2008年度-現在
インド思想史学会理事	1993年度-現在
Indogermanische Gesellschaft, Beirat (印欧語学会, 顧問)	2004年11月-現在
日本印度学仏教学会理事学会誌ワーキンググループ委員	2005年-2006年
Mitglied des Münchener Sprachwissenschaftlichen Studienkreises	2000年-現在

桜井宗信

日本印度学仏教学会評議員	1999年度-現在
印度学宗教学会常務理事	1999年度-現在
日本仏教学会理事	2005年度-現在
仏教思想学会評議員	2006年度-現在
日本西蔵学会委員	2006年度-現在

密教研究会理事

2006年度－現在

吉水清孝

日本印度学仏教学会評議員 2009年度－現在

インド思想史学会評議員 2001年度－2005年度

インド思想史学会理事 2005年度－現在

印度学宗教学会常務理事 2008年度－現在

北海道印度学仏教学会評議員 1997年度－2002年度，2007年度－現在

北海道印度学仏教学会理事 2003年度－2006年度

Ⅶ 教員の教育活動（2009年度）

(1) 学内授業担当

1 大学院授業担当

桜井宗信 教授

インド仏教史特論 I bSod nams rtse mo 著『タントラ概論』の原典講読

インド仏教史特論 II bSod nams rtse mo 著『タントラ概論』の原典講読

インド仏教史研究演習 I 梵蔵漢三本対照による『俱舎論』の講読

インド仏教史研究演習 II 梵蔵漢三本対照による『俱舎論』の講読

吉水清孝 准教授

インド学特論 I インド哲学文献講読

インド学特論 II ヒンドゥー法典研究

インド学特論 I ヴェーダ文献講読

インド学特論 II ヴェーダ文献講読

インド学研究演習 I ヒンドゥー教神話文献講読 (*Mahābhārata*)

インド学研究演習 II ヒンドゥー教神話文献講読 (*Viṣṇupurāṇa*)

2 学部授業担当

桜井宗信教授

インド仏教史概論（前期） インド仏教史概説－その1

インド仏教史概論（後期） インド仏教史概説－その2

チベット語（前期） 古典チベット語初級文法 I

チベット語（後期） 古典チベット語初級文法 II

インド仏教史各論（前期）	bSod nams rtse mo 著『タントラ概論』の原典講読
インド仏教史各論（後期）	bSod nams rtse mo 著『タントラ概論』の原典講読
インド仏教史演習（前期）	梵蔵漢三本対照による『俱舎論』の講読
インド仏教史演習（後期）	梵蔵漢三本対照による『俱舎論』の講読

吉水清孝 准教授

インド学概論（前期）	ヴェーダと古代インド思想
インド学概論（後期）	インド哲学とヒンドゥー教
インド学基礎演習（前期）	ヒンドゥー教文献入門（ <i>Bhagavadgītā</i> ）
インド学各論（前期）	インド哲学文献講読
インド学各論（後期）	ヒンドゥー法典研究
インド学演習（前期）	ヒンドゥー教神話文献講読（ <i>Mahābhārata</i> ）
インド学演習（後期）	ヒンドゥー教神話文献講読（ <i>Viṣṇupurāṇa</i> ）

3 共通科目・全学科目授業担当

桜井宗信教授

基礎ゼミ（前期） 仏教説話を読む

吉水清孝 准教授

基礎ゼミ（前期） インドの歴史と文化

人文社会科学総論 インド学仏教史専修分1 齣

(2) 他大学への出講（2005～2009 年度）

後藤敏文 教授

宮城学院女子大学非常勤講師（2001 年度－2005 年度）

総合地球環境学研究所共同研究員（2004 年 6 月－現在）

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究員（2004 年度－現在）

大谷大学非常勤講師（2005 年度）

北海道大学大学院非常勤講師（2006 年度）

京都大学人文科学研究所研究班班員（1995 年度－現在）

桜井宗信 教授

名古屋大学大学院非常勤講師（2006 年度）

吉水清孝 准教授

東北大学大学院非常勤講師 (2006 年度)